

国際交流員スザンネ・シーロックの

グーテン・ターク!



第9回 | やはり梅雨は・・・

皆さんグーテン・ターク! 今年の梅雨はどうですか。

6月にある梅雨は本当に嫌いです。じめじめとしていて心まで暗くなってしまいます。だからアジサイの花が七色に咲いて少しでも明るくするのもかもしれませんが、今年車のない私にとっては不便なことが多そうです。ドイツでは雨が降るとき外が寒くなるのですが、日本では寒くありません。私にとってそれは受け入れにくく、コントロールすることが難しいです。ドイツの夏は日本の夏と違って、ベトベトしないのです。

今年は夏になると、私の日本にいる時間がそろそろ終わるんですね～。ドイツの夏はいい季節だと思います。暑い時遅くまで外で遊べるから本当に好きです。夏は毎晩外で食事をしたり、ゲームをやったり、映画を見たりすることができます。

また、6月は教会の大事な祝日があります。それはカトリック教徒にとって大事な日ですから、カトリックの連邦州だけが休日です。

その祝日は、ドイツ語でFronleichnam フロンライヒナ(ー)ム『聖体の日』といいます。

fron とはHerr(神)、leichnamがlebendigen Leib(生きている体)の意味だそうです、つまり日本語訳のとおり、“Leib des Herrn”(キリストの聖体)を祝うカトリックの祝日です。

同じドイツ国内でも州によって違うのですが、私の住むBaden-Württemberg(バーデン・ヴュッテムベルク)州ではこの日は祝日です。

元々のラテン語は“festum sanctissimi corporis Christi”、ドイツ語では“Fest des heiligsten Leibes Christi”(最も聖なるキリストの体の(ための)お祭り)だったようですが、現在では“Hochfest des Leibes und Blutes Christi”(キリストの体と血のための最大のお祭り)とも言われています。

家の軒先、前庭には紙で作られた花が飾られ、祭祀は聖体が納められた“Monstranz”(聖体顕示台)を頭上にかかげながら練り歩きます。

友人が子供の頃、彼女はカトリックの宗教色が強い田舎に住んでいたそうで、この日は子供たちがめいめい籠に野の花を摘み、道に敷き詰めて、それは美しく、子供心に楽しい祝日だったそうです。

カトリックの宗教色が強い場所によっては今でも花の絨毯じゅうたんを作るようですが、私の暮らしているあたりでは見かけません。



国際交流員スージーの『世界の旅』

6月の「世界の旅」は・・・

「カナダのホットケーキ」

日 時：平成19年6月16日(土)

午後1時～午後3時

場 所：きらら館 調理室

定 員：先着15人

参加費：1人500円(小学生以下250円)

持ち物：エプロン、ふきん、持ち帰り用タッパ

講 師：アンヴィーター先生(カナダ出身)

申 込：6月4日(月)～14日(木)までに電話で生活課(☎40-5555)へお申し込みください。ただし、先着順ですので定員になり次第受付を終了します。

7月の世界の旅(最終回)は・・・

「お礼のお別れクレープパーティー」

日 時：平成19年7月14日(土)

午後5時30分～午後7時

場 所：グリムの館 2階 喫茶室

定 員：30人

参加費：1人600円(小学生以下350円)

持ち物：自分のオリジナルクレープを作りたい人は、具材をお持ちください。なお、以下の材料は事務局で用意します。(バナナ、チョコソース、生クリーム、いちご、ツナ、トマト、きゅうり、ハム、チーズなど)

申 込：6月18日(月)～7月12日(木)までに電話で生活課(☎40-5555)へお申し込みください。ただし、先着順ですので定員になり次第受付を終了します。